

10年後の守谷

郷州小学校四年 清水 應

二〇〇二年一月二十八日

ぼくは守谷市誕生よりも5日早く生まれ、二月二日、守谷町から守谷市誕生の日にお父さんかぼくの「出生届」を出したそうです。だからぼくは「守谷市民」です。これから10年20年、市の発展とぼく達がどんな大人に成長しているかを思うと、便利で楽しい空想都市も想像してしまいます。しかし、それだ

けで良いのでしょうか。

茨城県22番目の市として誕生した守谷市。

二〇〇五年にはつくばエクスプレスが開通し、

市制施行時には人口約五万一千人でしたが、

10年後の今日においては、六万二千人をこえ

人口急増と共に街も大幅に発展し、テレビヤ

雑誌にも取り上げられる様になりました。

大型ショッピングセンターや映画館、外食産

業等があらこちらに出来、便利になりました

た。これからも様々な商業施設や住宅地が建

設され、新しい道路がどんなのびて行くの
だろうな。ぼくの家からも守谷駅まで一直線
で行かれる様に道路整備が行われています。
自転車でも行くことができます。しかし、
それは便利になると同時に森を削り、畑や草
が生い茂る荒地を平らにしアスファルトを
しいてしまおう。便利イコール自然が失われる
と言う事でもあります。

建物がどんどん建ち、今までは違った風景
が現れ、夜にはキラキラと灯が放たれ、都市

化する事は良い事かも知れませんが、それは
本当に必要な開発ばかりなのではないか。

昨年、巨大地震、原子力発電の問題とぼく達

は色々な事を考えさせられました。利便性を

求め過ぎたため、とうとう地球が悲鳴を出し

始めたのだらうと思います。自動車や建設現

場からの排気ガスが地球温暖化を少しずつ進

め、又、ゴミ処理問題と課題はたくさんあり

ます。少しでも温暖化を止め、いつまでも美

しい守谷でいられるために、市がすすんで取

リ組むべき事だと思っています。それが元となり
環境問題について学んだばかりのぼく達四年
生が頑張って地域活動の輪を広げられれば、
何年たってもずっと注目される素で住み
良い「守谷市」でいられると思います。

建物はこれれば建て直す事が出来ます。

しかし、一度こわれた自然を復活させる事は
簡単な事ではありません。自然をやりながら
荒地地を上手に活用していけば未来の守谷市
は今以上に便利で自然あふれる街になっ

る事と、期待します。

10年後、20才となったぼくは、どんな大人
になり、どんな素てきな街になった守谷で、
成人式をおかえる事でしようか。

ずっと前から住んでいらっしやる方達、今の
ぼく達も「住んで良かった」と思える守谷。

そして、未来の方達からも「本当に良い街だ
な」と思ってもらえる様な守谷になっ
てほしいです。